

# 風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

教会委嘱牧師：竹田孝一

しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。Ⅰペテロ3:14 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

ヨハネによる福音書14:16~18

## 【説教要旨】

時代が劇的に変化し続けるとき、私たちだけでなく、若い方が生きづらさで悩んでいるというニュースを聞きました。

また時代は、大国の横暴です。独裁者・ロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席、そして、民主主義国家であるアメリカ大統領のトランプ大統領らは、経済力、軍事力を背景に小さな国への暴力です。イエス・キリストの御国が来ますようにと真摯に祈らなければならない時代に入りました。終末を強く望むようになっていきます。イエス・キリストを信じる者にとっても生きづらい時代でもあります。

歴史を見ても、新約聖書の使徒の時代も形は違っても劇的な変化にあって、ローマ帝国という大きな力をもって世界を支配していこうとしている時代に、少数者であったキリスト者は実

に生きづらい日々をもって信仰生活をしていました。

第1 ペテロは、このような時代にだされた手紙です。

それはキリスト者として生きるということが困難であったことをうかがわせます。「人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。」ということは恐れが起こるようなことが、心が乱れるようなことがあったということです。キリスト教迫害の時代です。社会の流れと抗う故に、少数ゆえに、キリスト者はローマ社会で追い詰められていき、キリスト者であるとはどういうことか自分自身にも、他者にも弁明しなければならなかったということです。

心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。3:15

しかし、大きな力の前にわたしたちは、キリスト者として生きていくとはどういうことか、いつも弁明できるように備えていく力が私たちにあるでしょうか。

「心の中でキリストを主とあがめなさい。」とあります。ここが、大切です。現代、人類は神のように力を得ました。しかし、人類は平和に、幸せに過ごしているかというと一部の人は富み、地位を手に入れていますが、多くの人が不幸の内にあります。私たちはこういう不幸を前にして、肯定出来ない信仰の姿勢があります。良心があります。しかし、大きな力を目にし、感じる時、その力に抗えない自分がいます。しかし、私たちは「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できる」者なのです。確かに、これは平坦な道でなく実に困難さを起こすものであり、恐れがあり、心乱されることがあり、さらに孤独であるということです。イエスさまが「みなしごとはしておかない」と言われるとき、それは、自分

は一人ではないかという困難さを思い起こすような出来事が起きるといことです。しかし、ここにこそ神の働きが見えてくるのです。

私たちが恐れ、心乱され、孤独になるとき、神も仏もないときこそ私たちの信仰が始まります。「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。」マタイ流に言えば「インマヌエル」です。神がいないといところ、ここに神がいてくださるといことを信じ生き抜いていくこと、心の中でキリストを主とあがめること、これがキリスト教信仰です。

さらにイエスさまは、私たちに「弁護者」を送ると約束をしてくださっています。それはわたしのそばにあって助けてくれる者という意味です。それが聖霊です。聖霊が働かれておられるといことです。私たちには、力がないが、しかし、この聖霊の助けの働きの中に私たちがあって、私たちがいるのです。

「心の中でキリストを主とあがめなさい。」といことです。ここに私たちの存在があるのです。ここに立つこと、**私たちが抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明でき、**「あなたは、孤独でない」と励ます存在と私たちが変えられていきます。

現代の時代、力が世界を席卷し、小さなものが大きな力を持つ国、人によって、多くの人が生きる所で死への壁まで追い詰められる孤独に陥っていくとき、またそれは他人ごとではなく、わたしたちも同様です。しかし、打ちのめされようと、私たちが負けない、決して孤独ではないといことです。

わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来ると約束されたイエス・キリストの弟子であることを感謝して、いざという時、いざという場、どうしようといときに、小さな、力なき主の弟子である日本のキリスト者にも聖霊の力に支えられていることを信じ、わたしたちは、時代がどうであれ、敢えて、**希望について弁明すること**を貫き今を生き抜いていきましょう。

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



「ロキソニンや胃腸薬など最大約40%値上げへ 第一三共ヘルスケア」というニュースが入ってきました。物流費、原材料の価格高騰が続いているのが原因だということです。

今、物価の高騰はどこの分野でも起きています。おいそれと病気も出来ないとなれば、それは私たちの生活を直撃します。

今、ひとり一人の生活が脅かされつつあり、深刻な危機的状况にあって、私たち教会はどうあるべきかを問われているような思いです。

教会が自分のことを守る自己保存的にならないで、どう隣人のために貧しくなっていくかと言うことです。愛されているということが真剣に問われていることに目覚める時と思います。



## 園長・瞑想？迷走記

### 3) 多(他)文化の中で 教育・保育をしていく



②時代の変化に対応しつつ、変化してはいけないこと、すべきことを見分ける力を持つこと。

グローバルの世界にあって多(他)文化の子どもたちに対応していくことは、将来の日本社会に大きな貢献をしていくと思う。

#### 1. 変化してはいけないこと

a) 子どもが自分自身を大切な一人として受け入れる保育。

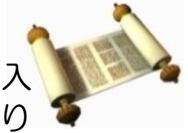
言葉、生活習慣によって、差別をせず大切な一人として受け入れていく保育者の姿勢。

b) 保護者自分自身も大切な一人として受け入れる。

「時間にルーズだ」、「もっと、園に協力的あってほしい」、「衛生面の観念が日本とまったく違う」。こういう声を聞く。

どうして「時間にルーズ」なのかなど「どうして」と考えてみる。自分を愛するように隣人を愛する。愛、つまり自分の価値観を押し付ける前に相手を大切にしていける柔軟な心を持つ。

## 毎日の糧



聖書：しかし、神はわたしの祈る声に耳を傾け／聞き入れてくださいました。神をたたえよ。神はわたしの祈りを退けることなく／慈しみを拒まれませんでした。

詩編66:19～20

### ルターの言葉から



苦しみが神のみ心にかなうものであり、それによってキリストににせられてくるということを知っておれば十分です。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 歴史を通して

この詩編は讚美の祭儀（1節から12節）と感謝の祭儀（13節から20節）の前半と後半に分けられる。

歴史に働く神の御業を讚美する。ユダヤ教を成立させた三つの歴史がある。天地創造、出エジプトとバビロニア捕囚である。苦難の歴史である。しかし、苦難を通して神はその御業を示されたことを讚美する。

13節から詠い手が「わたし」となり主語がわたしになる。この私が歴史を通して御業を働かれる神への感謝の讚歌をささげることになる。

「単に嘆願の詩篇と言う以上に、本篇の背景に何か特徴を与える主題がひそんでいるのだろうか」①というように信頼の表明、救いの体験、苦難の描写が繰り返され、とりとめのないように見えるゆえにこのような疑問が出てきたのは当然である。

月本氏は、「本詩全体を苦難から救われた信仰者による感謝と讚美」②としている。

「あなたがわたしを苦しめられた日々と苦難に遭わせられた月日」と詩篇90篇で苦難は神から来たと詠う。苦難をとおしてこそ、神はわたしの祈りを退けることなく／慈しみを拒まれませんでしたという神の真実さを味わい知ることができます。

①「新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ」 太田道子 日本基督教団出版局

②「詩編の思想と信仰Ⅲ」 月本照男 新教出版

祈り:神よ。私の人生の内にあつて苦難は、神の慈しみと受け止められる信仰をください。アーメン。

## 甘木通信

神から富や財宝をいただいた人は皆、それを享受し、自らの分をわきまえ、その労苦の結果を楽しむように定められている。これは神の賜物なのだ。

コヘレト5：18



「分」という言葉がコヘレトによく出てくる。人には貧しい者、富や財宝をもった金持ちである者がいる。それは、それぞれ「分」であるという。

ある時、教会に寄付をしたいとSさんのご主人から申し出があり、慌ててご自宅を訪問した。それは驚く金額の献金であった。Sさんのご主人は、その地方でも名門のお寺のご長男であった。第二次大戦の戦争中に徴用されて、戦後は、お寺は農地改革に合い、お寺を次男に譲り、自分は会社に残り、そのまま実業家として暮らした。まさに自らの分をわきまえて驕ることはなく、定められているという人生を受け止め、労苦の結果を楽しんでおられた。毎日、散歩なさるのだが、その姿がいつも清爽であって、お会いするだけでも人生を十分に生きておられると感じていた。自分の人生をよく生きたと感じられた。「その労苦の結果を楽しむように定められている。」というように「定められている。」ということ十分に受け止められていた。貧乏な家に生まれた私は、どうも品がなく、人生を定められているということ、自らの分をわきまえるということを受け止められずに足掻く人生であった。臨終の時、たまたま病室にいて、お寺の僧籍のあるSさんに臨終の祈りをささげられた。これが私の分、これは神の賜物なのだ」とSさんのご主人から教えられたような気がする。

(甘木日記)土) 庭の草取りを昼食、お茶の会を入れて11時から19時までする。ここまで何でするかという「引退したら教会の庭の掃除をしたい」と祈った結果で、祈りがかなったと感謝。日) 今週も午後から大雨。信徒さんに自宅まで送っていただく。月) 快晴。そのままにしているニガウリの苗が心配。うきは吉井の白壁並木へ。火) 山田堰へ。休み二日目。水) 連休最終日、家内と一緒に甘木教会の草取り。木) 松崎保育園、甘木教会の草取り。約延べ22時間の草取り。草は強し。金) 日善幼稚園、募金の領収書作り、野菜の苗を植えるポットへの土作り。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。  
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午前中に甘木教会に。週報他を印刷し、草取り。まずは玄関の芝に生えた草、次に園庭。食事お茶を入れて、11時から19時まで。体力が回復したのか力が出る。発病して1年。昨年は十分に芝、庭の手入れが出来ていなくてやはりその分、時間



がかかる。感謝と楽しい時間。その途中、Kさんが来られ手伝ってくださり、Mさんが差し入れ、Hさんが夏の苗を持って来てくださる。みんなで手入れが出来たことは感謝。教会の近くの夜は日帰り温泉へ。一年以上来っていないとのことで会員カード消滅。「そうか。大病して一年たつのか」と感慨深く湯に浸かる。日）朝、2時間ばかり草取り。それでも間に合わない。午後から雨が激しくなる。帰り、久留米までRさんが送っていただく感謝。名古屋の金城学院大学（女学）と名古屋学院大学が合併と聞き、驚く。時の流れの圧を感じる。時代に逆らえない中で、幼稚園の理念と経営のはざままで苦悩する。今日の礼拝のみ言葉を噛みしめる。「心騒がせるな。神を信じなさい。ヨハネ14：1」月）連休中、S牧師のお誘いで、浮羽へドライブに夫婦ともに連れて行っていただく。筑後吉井白壁の町並みの吉井の古民家、ゲストハウスに泊まる。近くに本屋もあり落ち着き、癒さしてくれる街並み。ここには古民家の好きな移住者によって再生されていっていると聞く。火）中村哲さんがアフガニスタンの

灌漑に使ったという工法の山田堰に寄り、帰宅して夕方から博多の屋台に出かけた。老夫婦が営む「玄海」という天ぷら屋の屋台。おまかせ1200円。水）久留米の町を歩いていると見慣れない蛾。調べるとキオビエダシャクというイン



ド、マレーシア半島、台湾、そして九州に分布する外来種の蛾で、イヌマキなどの木を枯らす害虫だと分かる。地球温暖化の現象か。午後から甘木へ草抜き。ご褒美と近所の方から黒酢ジュースをいただく。木）午前中は松崎保育園へ。いつも礼拝の説教の時に地球儀をもってくれるために購入しなくては思いつつ忘れてします。こういうことが多くなった。午後から甘木教会へ。今日も庭の草取り。日頃、誰もいない教会だから、いつも綺麗にしておかなければ思うが草の成長には体が追い付かない。数時間を続けて外仕事が出来るようになった。感謝。金）なんだか休みたいが野菜の苗を植えるポットへの土を入れなくてはいけない。今年は自分が作った堆肥も入れることが出来た。また芋畑も作る。心は休みたい(笑)

